

2026年8月14日

学修実態および授業評価 に関する報告書

2026年春学期

清泉大学 看護学部
教務委員会

目的

- 清泉大学 看護学部 看護学科 の授業科目における学修実態を把握する.
- 項目に応じて「学年別」×「授業形態」別, またはDP別に分析する.
- 本学の教学マネジメント体制における, 教育課程の編成に関する全学的な方針の検討への基礎データとして活用する.
- 調査項目
 - I 学修実態(①学修時間, ②予復習の実態)
 - II 授業評価
 - III 授業満足度

■ 調査時期

- ・ 2026年7月

■ 調査対象

- ・ 清泉大学 看護学部 看護学科を対象.
- ・ 分析対象は, 2026年度春学期に開講した看護学部 看護学科科目のうち47科目(※). 総回答数1,127件.

看護学部 看護学科科目 分析対象

表2 配当年次・授業形態別・学科/コース別 看護学部 看護学科科目の分析対象

学科		講義	演習	実習	総計
1年次科目	共通教育	3	4		7
	基礎	4			4
	基盤	1	1	1	3
	1年次科目合計	8	5	1	14
2年次科目	基礎	5			5
	基盤	2	2		4
	実践	4			4
	総合	4	2		6
	教職	2			2
	2年次科目合計	17	4		21
3年次科目	基盤		1		1
	実践		5		5
	総合	2	2		4
	教職	1			1
	3年次科目合計	3	8		11
4年次科目	総合	1			1
	4年次科目合計	1			1
看護学部 看護学科全体		29	17	1	47

調査項目および分析の枠組み

本報告では、授業評価アンケートの設問を分析目的に応じて3つの調査項目に整理した。

- I「学修実態」ではQ2・Q3を、II「授業評価」ではQ5～Q14, Q16を、III「授業満足度」ではQ15を用いて分析した。
- Q2・Q3・Q15は「配当年次×授業形態別」、Q5～Q14, Q16は各科目が対応するDP別に集計した。
- Q2は「0分」から「2時間以上」までの5段階、Q3は予習・復習の取組状況を5区分、Q4～Q16は「そう思わない」から「そう思う」までの5件法で回答を求めた。

調査項目	分析対象設問	分析軸	分析目的	回答方法
I 学修実態	Q2, Q3	配当年次×授業形態	学修時間・予復習の実態把握	Q2:時間区分による5件法／Q3:予習・復習の取組区分
II 授業評価	Q5～Q14, Q16	DP別	学習成果目標に対応する科目群の授業評価を把握	「そう思わない」～「そう思う」の5件法
III 授業満足度	Q15	配当年次×授業形態	授業全体の評価を把握	「そう思わない」～「そう思う」の5件法

調査項目 I 学修実態の調査

調査項目 I -① 学修時間(看護学部) 記述統計

表3 配当年次・授業形態別 看護学部全体の学修時間の平均

配当年次	講義		演習		実習		全体	
	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数
1年次科目	2.43 (0.61)	8	2.94 (0.69)	5	3.70 (0.00)	1	2.70 (0.72)	14
2年次科目	2.44 (0.37)	17	3.30 (1.17)	4			2.60 (0.70)	21
3年次科目	2.67 (0.24)	3	4.25 (0.29)	8			3.82 (0.75)	11
4年次科目	1.75 (0.00)	1					1.75 (0.00)	1
看護学部全体	2.43 (0.46)	29	3.64 (0.92)	17	3.70 (0.00)	1	2.90 (0.89)	47

- 看護学部全体の学修時間平均は2.90(推定56.9分)であり、授業形態別では演習3.64, 実習3.70が講義2.43を大きく上回った。昨年度同期の学修時間平均と比較すると若干の減少がみられる。
- 配当年次別では1年次2.70, 2年次2.60に対して3年次3.82と高く、専門科目の比重が高まる3年次で学修時間が長い傾向がみられた。
- 2年次演習では標準偏差が1.17と比較的大きく、科目間のばらつきが大きいことから、平均値のみで一律に捉えることには留意が必要である。
- 4年次は1.75であるが対象が1科目のみであるため参考値とする必要がある。看護学部では学年進行と科目構成が密接に関連しているため、年次差をそのまま学年による変化と捉えず、専門科目・授業形態の違いも含めて解釈する必要がある。

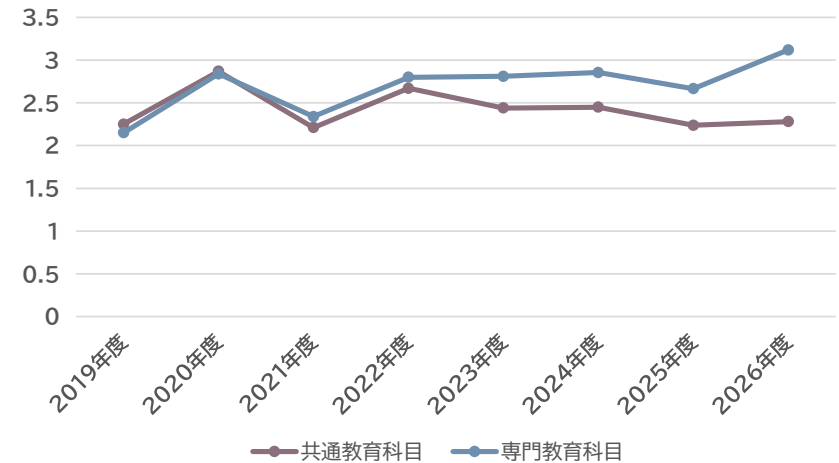
参考
過去3か年の推移
(推定分換算)

2025年度春	2024年度春	2023年度春
60.4分	64.9分	62.8分

調査項目Ⅰ-① 学修時間(1年生 共通教育・専門科目 年度比較) 記述統計

表4 1年生の学修時間の比較(共通教育・専門科目別)

配当年次	共通教育科目		専門教育科目	
	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数
2019年度	2.25 (1.12)	14	2.15 (0.81)	6
2020年度	2.87 (1.13)	13	2.84 (1.03)	6
2021年度	2.21 (0.98)	11	2.34 (0.92)	7
2022年度	2.67 (0.69)	13	2.80 (0.36)	5
2023年度	2.44 (0.43)	13	2.81 (0.51)	10
2024年度	2.45 (0.28)	9	2.86 (0.59)	8
2025年度	2.24 (0.33)	11	2.67 (0.60)	8
2026年度	2.28 (0.42)	7	3.12 (0.71)	7

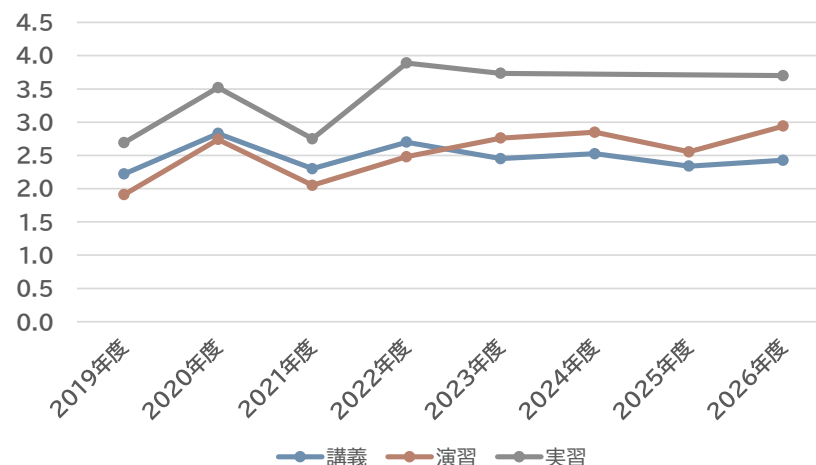


- 2026年度の1年次科目では、共通教育科目2.28に対して専門教育科目3.12となり、専門教育科目が0.84ポイント上回った。
- 前年から、共通教育科目は2.24→2.28とほぼ同水準である一方、専門教育科目は2.67→3.12と上昇しており、今年度の1年次における学修時間の増加は専門教育科目で顕著であった。
- 近年は専門教育科目が共通教育科目を上回る傾向が続いており、カリキュラム変更以降、看護専門教育の導入段階から授業外学修時間が比較的多く確保されていることがうかがえる。

調査項目 I -① 学修時間(1年生の講義形態別比較) 記述統計

表5 1年生の学修時間の比較(講義形態別)

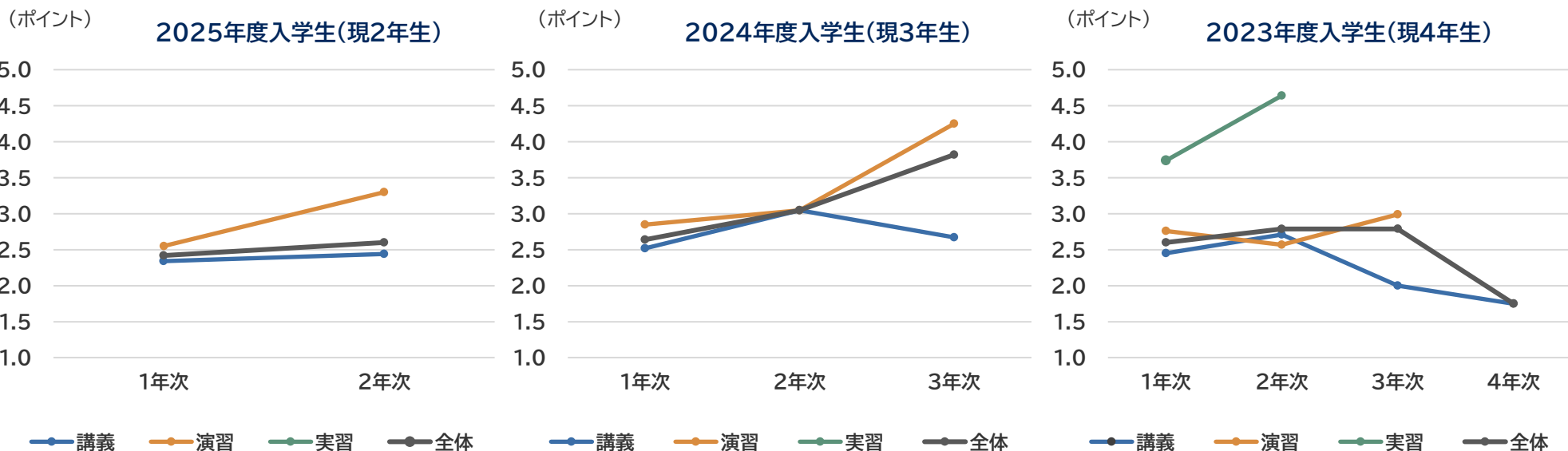
配当年次	講義		演習		実習	
	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数
2019年度	2.22 (0.99)	16	1.91 (0.89)	3	2.69 (0.00)	1
2020年度	2.83 (1.08)	15	2.74 (1.00)	3	3.52 (0.00)	1
2021年度	2.30 (0.96)	15	2.05 (0.79)	2	2.75 (0.00)	1
2022年度	2.70 (0.60)	14	2.48 (0.17)	3	3.89 (0.00)	1
2023年度	2.45 (0.38)	15	2.76 (0.51)	7	3.74 (0.00)	1
2024年度	2.52 (0.30)	11	2.85 (0.68)	6		
2025年度	2.34 (0.36)	12	2.55 (0.67)	7		
2026年度	2.43 (0.61)	8	2.94 (0.69)	5	3.70 (0.00)	1



- 2026年度の1年次科目では、講義2.43に対して演習2.94となり、演習科目で授業外学修時間が長かった。
- 前年と比べると講義は2.34→2.43、演習は2.55→2.94といずれも上昇しており、特に演習科目で増加幅が大きい。
- 実習は3.70と最も高いが対象は1科目のみであるため参考値とする。1年次段階でも、参加型・実践型の授業ほど学修時間が長くなる傾向がみられた。

調査項目 I -① 入学年度コホート別学修時間の推移(看護学部全体)

表6 看護学部全体 入学年度コホート別在学生の学修時間推移



入学年度	学年	講義	演習	実習	全体
2025年	1年次	2.34	2.55		2.42
	2年次	2.44	3.30		2.60
2024年	1年次	2.52	2.85		2.64
	2年次	3.05	3.05		3.05
	3年次	2.67	4.25		3.82
2023年	1年次	2.45	2.76	3.74	2.60
	2年次	2.71	2.57	4.64	2.79
	3年次	2.00	2.99		2.79
	4年次	1.75			1.75

調査項目 I -② 予習・復習の取組み状況(看護学部全体) 記述統計

表7 予習・復習の取組み状況

		両方	予習	復習	どちらもあまり やらなかった	やらなかった
1年次科目	講義	17.8%	5.6%	64.7%	9.3%	2.6%
	演習	24.7%	33.2%	38.3%	2.7%	1.1%
	実習	69.8%	9.3%	20.9%	0.0%	0.0%
2年次科目	講義	16.8%	10.8%	63.8%	6.4%	2.1%
	演習	52.6%	8.7%	35.3%	3.1%	0.3%
3年次科目	講義	29.4%	0.0%	70.6%	0.0%	0.0%
	演習	63.4%	24.2%	12.2%	0.2%	0.0%
4年次科目	講義	41.7%	0.0%	50.0%	0.0%	8.3%

- 講義科目では1～3年次を通じて「復習」の割合が最も高く、1年次64.7%、2年次63.8%、3年次70.6%となり、講義では復習中心の学修傾向が明確であった。
- 演習科目では1年次は「復習」38.3%、「予習」33.2%、「両方」24.7%と分散しているが、2年次では「両方」52.6%、3年次では63.4%となり、高年次ほど予習・復習を組み合わせて取り組む割合が高かった。
- 実習系科目では1年次で「両方」69.8%と高く、授業形態によって授業外学修の取り組み方に明確な違いがみられた。
- 非実施割合は全体として低く、専門教育が進むにつれて、特に演習・実習で予習と復習を組み合わせる学修行動がみられる。

調査項目 I -② 予習・復習の取組み状況 図表

表8 予習・復習の取組み状況ヒートマップ

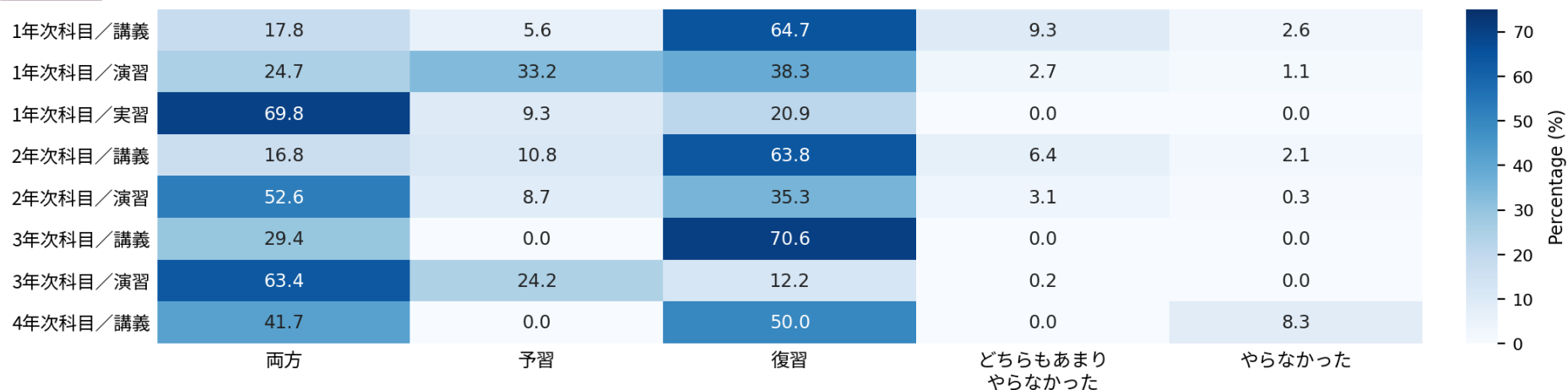
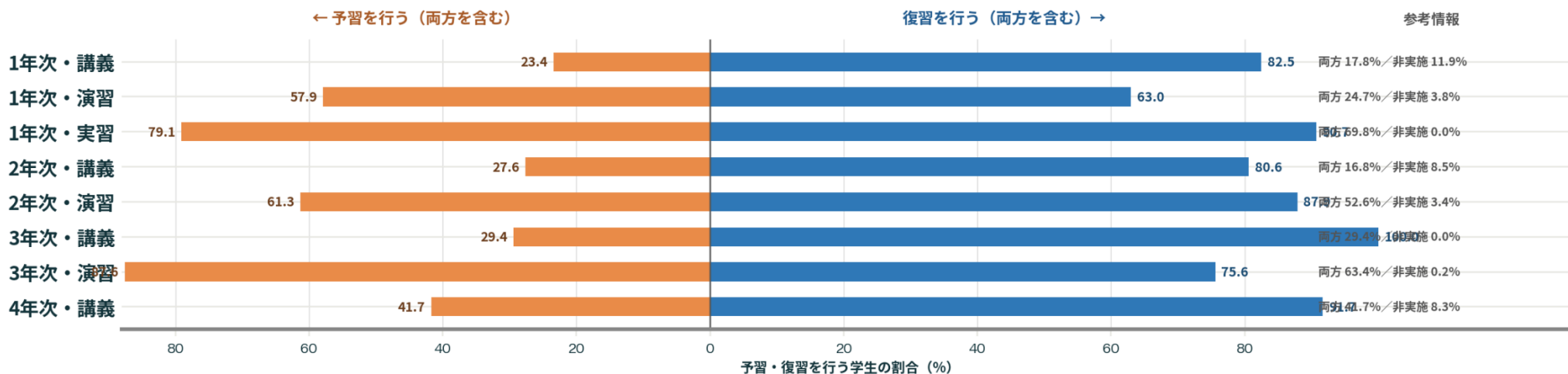


表9 予習・復習の重点度(配当年次・科目区分別)



※『予習』『復習』と回答した割合をそれぞれ左右に配置,『両方』および非実施割合は参考情報として併記し,科目区分ごとの学修行動の傾向を比較。

調査項目Ⅱ 授業評価の調査

調査項目Ⅱ 授業評価(教養教育科目) 記述統計

表10 教養教育科目 学習成果目標別 授業評価の平均

DPとの関係	学習成果目標	科目数	授業評価										
			目標提示	授業計画	説明理解	教材工夫	授業環境	課題効果	課題の量	授業改善	教員意欲	関心寄与	成果寄与
①	共感力	7	4.80	4.82	4.63	4.67	4.78	4.77	4.76	4.74	4.84	4.68	4.76
②	人間関係力	7	4.80	4.82	4.63	4.67	4.78	4.77	4.76	4.74	4.84	4.68	4.76
③	学習推進力	7	4.80	4.82	4.63	4.67	4.78	4.77	4.76	4.74	4.84	4.68	4.76
④	科学的探究心	7	4.80	4.82	4.63	4.67	4.78	4.77	4.76	4.74	4.84	4.68	4.76
⑤	リーダーシップ	1	4.83	4.83	4.78	4.74	4.83	4.83	4.74	4.83	4.78	4.65	4.74
⑥	看護実践力	1	4.83	4.83	4.78	4.74	4.83	4.83	4.74	4.83	4.78	4.65	4.74
⑦	地域包括支援実践力	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑧	国際・災害支援実践力	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
看護学部看護学科学科全体			4.81	4.82	4.68	4.69	4.80	4.79	4.75	4.77	4.82	4.67	4.75

- 教養教育科目全体では、授業計画4.82, 教員意欲4.82, 授業環境4.80などが高く、授業設計・実施に関する評価は全般に高い水準であった。
- 「共感力」・「人間関係力」・「学習推進力」・「科学的探究心」は同じ7科目を基礎として集計されており、各項目の評価値も同一となっている。このため、これら4つの学習成果目標間の差として解釈することは適切ではない。
- 「リーダーシップ」・「看護実践力」は各1科目のみで比較的高い評価となっているが参考値として扱う必要がある。

調査項目Ⅱ 授業評価(教養教育科目) 図表

表11 看護学部全体 学修成果目標別の授業評価結果ヒートマップ

色は、教養教育科目における評価項目別平均との差を示す。青・緑は平均を上回る項目、黄は平均付近、赤は平均を下回る項目を表す



調査項目Ⅱ 授業評価(専門科目) 記述統計

表12 専門科目 DP別 学修関与・授業評価の平均

DPとの関係	学習成果目標	科目数	授業設計・実施										
			目標提示	授業計画	説明理解	教材工夫	授業環境	課題効果	課題の量	授業改善	教員意欲	関心寄与	成果寄与
①	共感力	40	4.67	4.74	4.51	4.52	4.52	4.58	4.38	4.56	4.71	4.56	4.61
②	人間関係力	40	4.67	4.74	4.51	4.52	4.52	4.58	4.38	4.56	4.71	4.56	4.61
③	学習推進力	39	4.67	4.74	4.50	4.51	4.51	4.58	4.40	4.55	4.71	4.55	4.60
④	科学的探究心	38	4.66	4.73	4.50	4.51	4.50	4.57	4.36	4.54	4.70	4.56	4.61
⑤	リーダーシップ	14	4.63	4.72	4.47	4.49	4.37	4.55	4.07	4.48	4.74	4.56	4.59
⑥	看護実践力	37	4.65	4.72	4.49	4.50	4.49	4.57	4.38	4.53	4.69	4.55	4.60
⑦	地域包括支援実践力	22	4.67	4.76	4.49	4.52	4.46	4.58	4.31	4.52	4.73	4.56	4.62
⑧	国際・災害支援実践力	19	4.67	4.76	4.48	4.50	4.43	4.56	4.29	4.50	4.73	4.57	4.61
情報コミュニケーション学科全体			4.66	4.74	4.49	4.51	4.48	4.57	4.32	4.53	4.72	4.56	4.61

- 専門科目全体では授業計画4.74, 教員意欲4.72などが比較的高い一方, 課題の量4.32, 授業環境4.48, 説明理解4.49は相対的に低かった.
- 「リーダーシップ」は課題の量4.07, 授業環境4.37などが専門科目全体を下回り, 他の学習成果目標と比べても低い項目がみられた.
- 「地域包括支援実践力」「国際・災害支援実践力」では授業計画4.76が比較的高い一方, 課題の量はそれぞれ4.31, 4.29, 授業環境も4.46, 4.43と低めであり, 専門性の高い科目群で課題負荷や授業環境に関する評価が相対的に低い傾向がみられた.
- 教養教育科目と比べて専門科目では全般に評価が低めであるが, 専門科目は高年次を中心に難易度・課題量・実践性が異なるため, 単純な優劣としてではなく科目特性を踏まえて解釈する必要がある.

調査項目Ⅱ 授業評価(専門科目) 図表

表13 専門科目 学修成果目標別の授業評価結果ヒートマップ

色は、各コース・学科における評価項目別平均との差を示す。青・緑は平均を上回る項目、黄は平均付近、赤は平均を下回る項目を表す



調査項目Ⅲ 授業満足度の調査

調査項目Ⅲ 授業満足度(看護学部全体) 記述統計

表14 配当年次・授業形態別 看護学部全体の授業満足度の平均

配当年次	講義		演習		実習		全体	
	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数
1年次科目	4.65 (0.24)	8	4.70 (0.17)	5	4.70 (0.00)	1	4.67 (0.21)	14
2年次科目	4.43 (0.45)	17	4.81 (0.08)	4			4.51 (0.43)	21
3年次科目	5.00 (0.00)	3	4.27 (0.58)	8			4.47 (0.59)	11
4年次科目	5.00 (0.00)	1					5.00 (0.00)	1
看護学部全体	4.57 (0.41)	29	4.52 (0.48)	17	4.70 (0.00)	1	4.56 (0.43)	47

- 看護学部全体の授業満足度は4.56であり、全体として良好な水準であった。
- 授業形態別では講義4.57、演習4.52とほぼ同水準で、実習4.70は1科目のみのため参考値となる。
- 配当年次別では1年次4.67、2年次4.51、3年次4.47となり、専門科目の比重が高まる2・3年次でやや低い傾向がみられた。4年次5.00は1科目のみである。
- 看護学部では配当年次と科目区分が強く関連しているため、この年次差には専門科目の難易度や学修負荷の違いが影響している可能性がある。

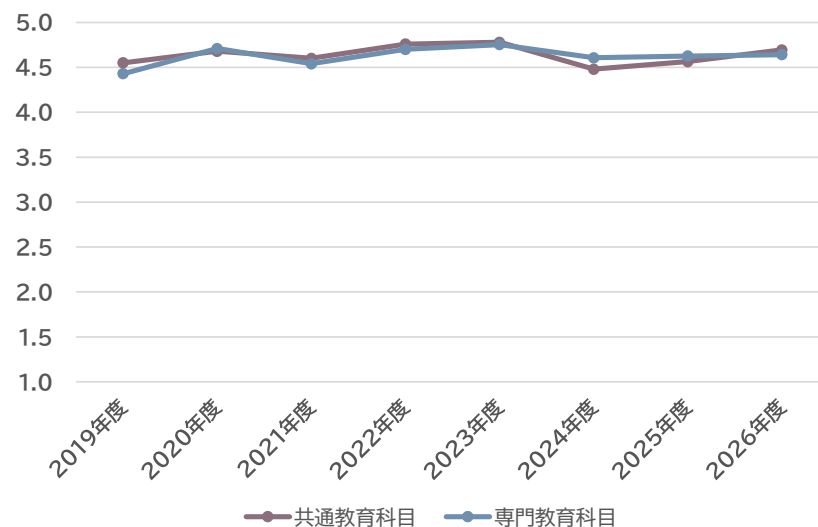
参考
過去3か年の授業
満足度推移

2025年度春	2024年度春	2023年度春
4.69	4.67	4.68

調査項目Ⅲ 授業満足度(1年生 共通教育・専門科目 年度比較) 記述統計

表15 1年生の授業満足度の比較(共通教育・専門科目別)

配当年次	共通教育科目		専門教育科目	
	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数
2019年度	4.55 (0.70)	14	4.43 (0.82)	6
2020年度	4.68 (0.61)	13	4.71 (0.50)	6
2021年度	4.60 (0.75)	11	4.54 (0.85)	7
2022年度	4.76 (0.60)	13	4.70 (0.71)	5
2023年度	4.78 (0.13)	13	4.75 (0.17)	10
2024年度	4.48 (0.38)	9	4.61 (0.15)	8
2025年度	4.56 (0.23)	11	4.63 (0.19)	8
2026年度	4.69 (0.20)	7	4.64 (0.22)	7

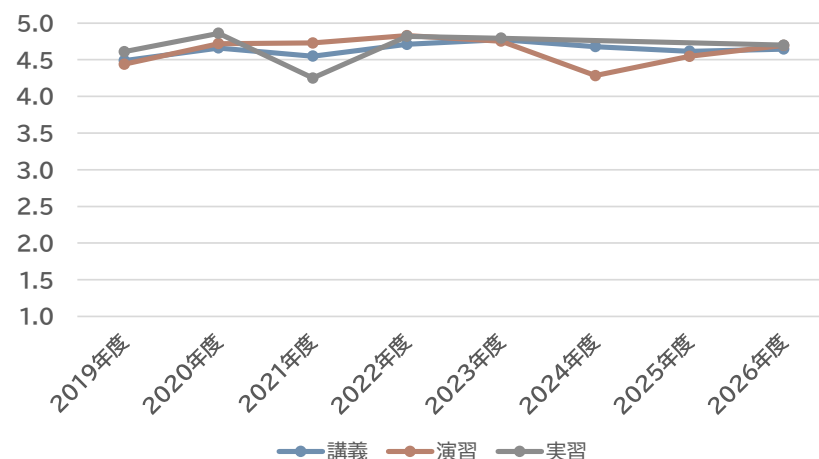


- 2026年度の1年次科目では, 共通教育科目4.69, 専門教育科目4.64と, 授業満足度はほぼ同水準であった。
- 前年と比べると, 共通教育科目は4.56から4.69へ上昇し, 専門教育科目は4.63から4.64とほぼ横ばいであった。
- 学修時間では専門教育科目が共通教育科目を大きく上回った一方, 授業満足度には大きな差がみられず, 学修負荷の違いがそのまま満足度の差にはつながっていない。

調査項目Ⅲ 授業満足度(1年生の講義形態別比較) 記述統計

表16 1年生の授業満足度の比較(共通教育・専門科目別)

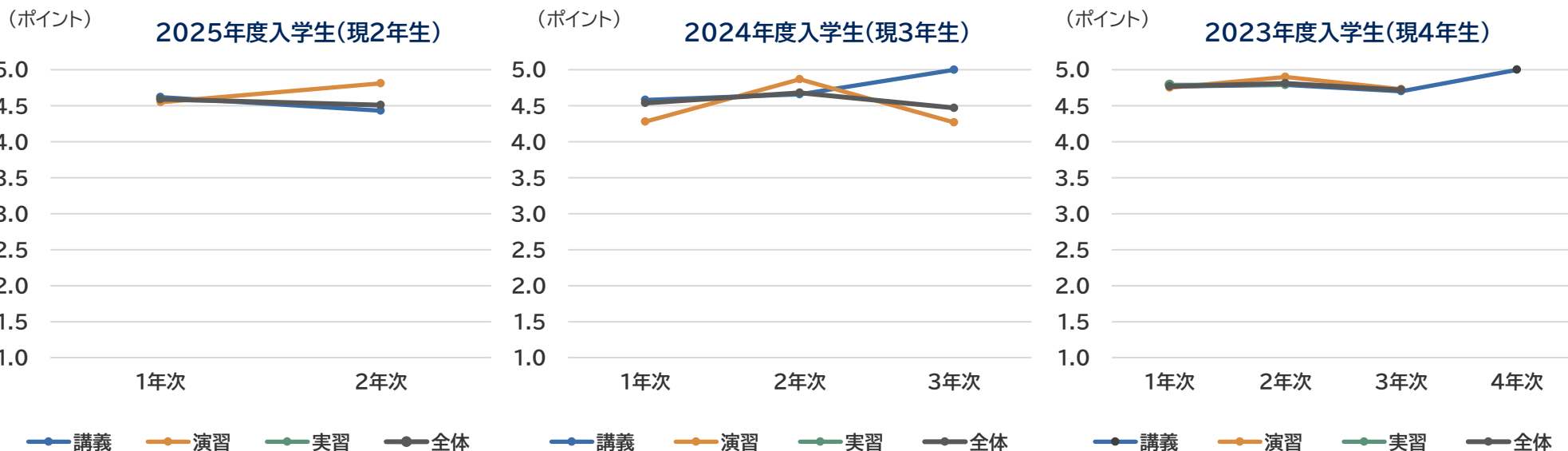
配当年次	講義		演習		実習	
	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数
2019年度	4.49 (0.77)	16	4.44 (0.71)	3	4.61 (0.00)	1
2020年度	4.66 (0.60)	15	4.72 (0.47)	3	4.86 (0.00)	1
2021年度	4.55 (0.82)	15	4.73 (0.56)	2	4.25 (0.00)	1
2022年度	4.71 (0.69)	14	4.83 (0.43)	3	4.82 (0.00)	1
2023年度	4.77 (0.16)	15	4.75 (0.14)	7	4.79 (0.00)	1
2024年度	4.68 (0.13)	11	4.28 (0.35)	6		
2025年度	4.62 (0.21)	12	4.55 (0.23)	7		
2026年度	4.65 (0.24)	8	4.70 (0.17)	5	4.70 (0.00)	1



- 2026年度の1年次科目では、講義4.65、演習4.70、実習4.70と、授業形態による満足度の差は小さかった。
- 前年と比べると、講義は4.62から4.65とほぼ同水準、演習は4.55から4.70へ上昇した。
- 学修時間では演習・実習が講義を上回っている一方、授業満足度はいずれの授業形態も4.6点台後半となっており、授業外学修時間の多さと満足度の低下が直結しているわけではないことがうかがえる。
- 実習は1科目のみであるため参考値として扱う必要がある。

調査項目Ⅲ 入学年度コホート別授業満足度の推移(看護学部全体)

表17 看護学部 入学年度コホート別在学生の授業満足度推移



入学年度	学年	講義	演習	実習	全体
2025年	1年次	4.62	4.55		4.59
	2年次	4.43	4.81		4.51
2024年	1年次	4.58	4.28		4.54
	2年次	4.66	4.87		4.68
	3年次	5.00	4.27		4.47
2023年	1年次	4.77	4.75	4.79	4.77
	2年次	4.79	4.90	4.79	4.81
	3年次	4.70	4.73		4.72
	4年次	5.00			

まとめ

- 看護学部全体の学修時間は平均2.90で、講義2.43に対して演習3.64, 実習3.70と、参加型・実践型科目で長い傾向がみられた。特に3年次では平均3.82となり、専門教育の深化に伴う学修負荷の増加がうかがえた。
- 1年次では共通教育科目2.28に対して専門教育科目3.12と、専門教育科目で学修時間が長かった。一方、授業満足度は共通教育4.69, 専門教育4.64とほぼ同水準であり、学修負荷の違いが満足度に直接反映しているわけではなかった。
- 予習・復習では講義科目で復習を重視する傾向が強く、演習科目では2・3年次になると「予習・復習の両方」に取り組む割合が高まった。
- 授業評価では、教養教育科目は全般に高い評価であった。一方、専門科目では課題の量、授業環境、説明理解などが相対的に低く、特にリーダーシップや地域・災害支援に関連する科目群で一部低い項目がみられた。
- 授業満足度は学部全体で4.56と良好な水準であったが、1年次4.67に対して2年次4.51, 3年次4.47とやや低下した。ただし、看護学部では年次と科目構成が強く関連するため、専門科目の難易度や学修負荷を踏まえて解釈する必要がある。